

【別紙様式 I】 令和4年度 学校評価報告書

学校名 睦合中学校

厚木市教育委員会の基本目標 1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】 2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】	校長名 津田 敏行
---	-----------

学校教育目標	学校経営の方針
<b>「未来を拓き ともに支え歩む生徒の育成」                  ～学ぶ力、拓く力、つなぐ力～の育成</b>	(1)防災・生活・交通安全教育の充実を図り、安心・安全な教育環境を構築する (2)教育活動全般を通して豊かな人間関係を育む心の教育を充実させる (3)生徒の活動の場を充実させ、自主性を伸ばし将来豊かな自己実現につなげる (4)基礎学力の定着と確かな学力の向上をめざし、授業改善・工夫を図る (5)教職員相互の連携と共通理解のもとチーム力を生かした指導体制を確立する (6)家庭・地域との連携を深め、開かれた学校を推進する (7)ESD教育の実践を通して持続可能な社会性を育む

今年度の重点目標
(1)わかる・できる授業の展開による基礎学力の定着と学力向上(学力向上推進部) (2)生徒の力で創り上げる学校生活の実現(自治力育成部) (3)将来を見据え、よりよい社会を築いていく力を育成(生き方教育部) (4)よりよい自分づくり、生活しやすい学校づくりのための生活指導、生徒支援の充実(生徒指導支援部) (5)日常の教育活動や地域行事等での家庭、地域連携の構築 (6)ESD(持続可能な開発のための教育)の展開

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
教科指導の充実	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>相互授業参観</li> <li>小中連携事業</li> <li>主体的、対話的授業実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参観をすることでより良い授業づくりのヒントを得ることができたが、研究協議の場の設定が十分にできなかった。</li> <li>小中連携事業は非常に重要と捉え相互の学習指導の理解を深めることができた。しかし、十分な研究協議や系統的な学習の繋ぎは今後の課題である。</li> </ul>	それぞれを高めていくための協議する場の設定と時間確保が課題となるが、機能的な研究や連携が深められるよう実践的な取組となるように企画する
学力向上	1	アフタースクール 試験前補習、昼休み補習	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度から夏休み中に実施していた補習から放課後の補習に切り替えたが、参加率はそれほど高くなかった。しかし、参加した生徒にとっては成果が見られた。</li> <li>昼休みは学力ステップアップ支援員にも協力してもらい、必要な生徒への支援はできていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どうしても補習は限られた生徒になる傾向があるため、生徒も、教師も負担のない範囲で希望者以外にも声をかけ展開できる体制をつくる</li> <li>家庭学習に力を入れていきたいと考え、主に週末課題を中心にフィードバックできるような仕組みを作っていく</li> </ul>
学級経営	2	学級組織の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>全校同一の組織となっていて、各係が専門委員会に直結する仕組みとなっているため、生徒会活動が機能的となっている。一方クラスの独自性は作りづらい。いずれにしても全般的に充実していたと考える。</li> </ul>	学校生活のベースである学級経営は非常に大切で不登校を少しでも生まないためにも更に学校としての方向性を築き上げていく。1人1役を基本に1人を大切にできる学級経営を推進していく

生徒会活動の充実	2	①生徒会活動の充実 (専門委員会、生徒総会) ②生徒の力による学校づくり 本校独自の「4本柱」の実践	・コロナ禍でも計画していた生徒会活動を行うことができ、ねらいとする活動もおおむね達成できた。 ・本校独自の「4本柱」の一つである合唱は従前のようにいものを創り上げることができた。ただ、挨拶はまだ浸透せず、意識を高めたい。	学級経営との関連性を深め、生徒が主体的に活動できる場づくりをより多くしていく。また、4本柱の充実を図るために今以上にPRや様々な活動場面での実践を大切にしていく
道徳教育の推進	2・3	教科指導と日常的な場面での教育	予定していた年間計画に基づいて実施できた。道徳においても主体的な学びの場面を多くして、道徳的価値についての議論ができるようにしていきたい。	教科としての道徳教育と日常的な場面での教育とを併せて今後もその推進、充実に努めていく。
人権教育の充実	2・3	GOOD・STORY 人権作文	友だちの良いところを作文にする取組を本校では毎年行い、個性の尊重、思いやりの心を育む教育に一定の成果があると考え。今年度の全校人権集会はリモートで行い、各学年から選出された代表者の発表があり、全校で分かち合い、人権について考えることができた。	本校の特色でもある取組なので大切にしていきたいと考える。道徳とも関連付けて次年度も継続、発展した取組を考える。また、人権教育はこの取組ありきではないので今後、SDGsにからめて発展的な教育を行っていきたい。
防災・健康安全教育の充実	3	①防災タイム、チリリタイムによる学習 ②避難訓練・集団下校訓練・小中学校合同引き渡し訓練	①防災タイムでは災害についての基礎知識の学習を、チリリタイムは県教委の資料を基に交通安全の学習を行い、成果は出ていると考える。 ②避難訓練等、一通りの訓練は実施できた。特に小中合同引き渡し訓練も例年並みに実施でき、有事の確認ができた。	①重複することも多いが、反復することの重要性から次年度も継続して実施。 ②小中合同引き渡し訓練、集団下校訓練、校内避難訓練等の基本的な行動訓練の充実を図り、特に近いうちに起こり得る地震についての備えをしっかりと行う。
キャリア教育の推進	1・2・3	生徒会活動の充実・職業講話・職場体験・学級活動	1学年職業講話、2学年職場体験は実施することができ、社会に学ぶ生きたキャリア教育ができて生徒にとって有意義であった。	体験的な取組は次年度も計画し、主体的によりよい自己実現のために考える場面を日常から多く取り入れていく。学校運営協議会にての人材協力も視野に入れていきたい。
生徒指導の充実	2・3	基本的生活習慣の確立 いじめ、暴力の防止 自他の尊重	早期指導、家庭との連携はおおむね行うことができた。教員間における情報共有や指導の方向性も一定の実践ができた。1学年では小学校時にコロナ禍で集会ができなかったこともあり、集会の在り方等の指導を要するケースがあった。	引き続き、校内指導体制の確立のもと、共通理解を図り生活基盤を構築する。改めて小学校との児童生徒指導的な価値観の共有や指導の共通理解の場を図っていった。
生徒支援の充実	2・3	不登校生徒への支援 不適応生徒への支援	教育相談コーディネーターを中心に生徒理解に努め、個々に応じた支援を行い、状況が改善された生徒もいたが、長期になる生徒への対応が課題である。 個別支援のステップルームでの対応は元気アップアシスタントの協力を得て、ある程度の成果をあげることができた。	保護者、本人と課題共有をしながら教育相談を充実させていく。関係機関とも連携を図りながら、支援体制を整える。ステップルームの活用も含めて個別支援を更に充実させていく。

特別支援教育の充実	2・3	特別支援教育体制の確立	特別支援教育コーディネーターを中心に生徒理解に努め、個々に応じた学習プログラムの作成、多くの指導者の配置、並びに介助員のサポートによりきめ細かな特別支援教育が実践できた。	なるべく今年度並みの教育体制は考えていきたいが配置職員の減少から体制の再構築を考える。関わる職員を中心に全職員の共通理解を図りながらよりよい特別支援教育を推進していく。
今年度の学校関係者評価委員会からの意見				
本校の今年度の教育活動等について年間を通して主に授業、行事での生徒の取組は充実していたとの評価をいただいた。コロナ禍であっても生徒の学びは最大限確保してあげたいという方針は共有できて進めることができた。次年度についての学校経営方針は承認をいただき、中でも防災教育の重要性についての話題になり、専門家からの講演会等も実施出来たらよいとのご意見もいただいた。				
今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針				
コロナ禍3年経過ということであったが、ある程度その対応等が見えてきたため、感染対策のもと計画通りの教育活動が実施できたことは評価できる。今後、コロナ禍での見直し事項や工夫したこと等を生かしながらよりよい教育課程を編成していきたいと考える。本校の一番の課題でもある確かな学力の定着を図り、それぞれの教育活動を更に発展させるべく指導力向上と指導の積み重ねを考える。また、不登校生徒の減少も大きな課題でもあるので、支援体制を改めて考えていきたい。				